

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公開番号】特開2003-162404(P2003-162404A)

【公開日】平成15年6月6日(2003.6.6)

【出願番号】特願2002-29582(P2002-29582)

【国際特許分類第7版】

G 0 6 F 3/12

B 4 1 J 29/38

【F I】

G 0 6 F 3/12 M

G 0 6 F 3/12 C

B 4 1 J 29/38 Z

【手続補正書】

【提出日】平成16年5月31日(2004.5.31)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項5】

前記複数種類の用紙は、表紙、裏表紙、合紙、インデックス紙の少なくともいずれか1つを含み、前記判断工程では、用紙の種類に応じて判断することを特徴とする請求項1乃至4のいずれかに記載の情報処理方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項6】

前記給紙部は複数の給紙部を有し、前記判断工程では、用紙の種類及び当該用紙が給紙される給紙部に応じて判断することを特徴とする請求項1乃至5のいずれかに記載の情報処理方法。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項8】

前記判断工程では、用紙が第2の給紙部から給紙される場合及び、両面印刷且つインデックス紙の裏側である場合に、印刷不可能なページであると判断することを特徴とする請求項7に記載の情報処理方法。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項16

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項16】

前記複数種類の用紙は、表紙、裏表紙、合紙、インデックス紙の少なくともいずれか1つを含み、前記判断手段は、用紙の種類に応じて判断することを特徴とする請求項12乃至15のいずれかに記載の装置。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項17

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項17】

前記給紙部は複数の給紙部を有し、前記判断手段は、用紙の種類及び当該用紙が給紙される給紙部に応じて判断することを特徴とする請求項12乃至16のいずれかに記載の装置。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項19

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項19】

前記判断手段は、用紙が第2の給紙部から給紙される場合及び、両面印刷且つインデックス紙の裏側である場合に、印刷不可能なページであると判断することを特徴とする請求項18に記載の装置。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項21

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項21】

前記排紙方法設定手段は、出力時におけるZ折りの有無の設定を行う手段を含み、前記排紙方法設定手段により出力時におけるZ折りの設定がなされている場合に、前記用紙サイズ変更手段は、前記挿入用紙のサイズとして出力用紙サイズの半分のサイズに変更することを特徴とする請求項13に記載の装置。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

<システム構成及び動作>

図1は、本実施の形態の文書処理システムのソフトウェア構成を示す図である。文書処理システムは、本発明の情報処理装置に好適な実施形態であるデジタルコンピュータ100によって実現されている。一般アプリケーション101は、ワードプロセシングやスプレッドシート、フォトレタッチ、ドローあるいはペイント、プレゼンテーション、テキスト編集などの機能を提供するアプリケーションプログラムであり、オペレーティングシステム(OS)に対する印刷機能を有している。これらアプリケーションは、作成された文書データや画像データなどのアプリケーションデータを印刷するにあたって、OSにより提供される所定のインターフェース(一般に、GDIと呼ばれる)を利用する。すなわち、アプリケーション101は、作成したデータを印刷するために、前記インターフェースを提供するOSの出力モジュールに対して、あらかじめ定められる、OSに依存する形式の出力コマンド(GDI関数と呼ばれる)を送信する。出力コマンドを受けた出力モジュールは、プリンタ等の出力デバイスが処理可能な形式にそのコマンドを変換し、変換され

たコマンド（D D I 関数と呼ばれる）を出力する。出力デバイスが処理可能な形式はデバイスの種類やメーカー、機種などによって異なるために、デバイスごとにデバイスドライバが提供されており、OSではそのデバイスドライバを利用してコマンドの変換を行うことにより印刷データを生成し、J L（Job Language）でくることにより印刷ジョブを生成する。OSとしてマイクロソフト社のウインドウズを利用する場合には、前述した出力モジュールとしてはG D I（Graphic Device Interface）と呼ばれるモジュールが相当する。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 9】

さて、開かれたブックファイルには、電子原稿ライタ1 0 2によって電子原稿ファイルに変換されたアプリケーションデータを、新たな章として追加することができる。この機能を電子原稿インポート機能と呼ぶ。図7の手順によって新規に作成されたブックファイルに電子原稿インポートすることで、そのブックファイルには実体が与えられる。この機能は、図10または図11の画面にアプリケーションデータをドラッグアンドドロップ操作することで起動される。図8に電子原稿インポートの手順を示す。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 0】

まず、製本アプリケーション1 0 4は、指定されたアプリケーションデータを生成したアプリケーションプログラムを起動し、デバイスドライバとして電子原稿ライタ1 0 2を指定してアプリケーションデータを印刷出力させることで、電子原稿データに変換する（ステップS 8 0 1）。変換を終えたなら、変換されたデータが画像データであるか否かを判定する（ステップS 8 0 2）。この判定は、ウインドウズOSの下であれば、アプリケーションデータのファイル拡張子に基づいて行うことができる。例えば、拡張子が「b m p」であればウインドウズビットマップデータであり、「j p g」であればj p e g圧縮された画像データ、「t i f f」であればt i f f形式の画像データであると判定できる。また、このような画像データの場合はS 8 0 1のようにアプリケーションを起動せずに、画像データから直接電子原稿ファイルを生成することが可能であるため、S 8 0 1の処理を省略することも可能である。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 5】

（1）新規追加

（2）削除

（3）コピー

（4）切り取り

（5）貼り付け

（6）移動

（7）章名称変更

（8）ページ番号名称振り直し

- (9) 表紙挿入
- (10) 合紙挿入
- (11) インデックス紙挿入
- (12) 各原稿ページに対するページレイアウト。

このほか、いったん行った編集操作を取り消す操作や、さらに取り消した操作をやり直す操作が可能である。これら編集機能により、例えば複数のブックファイルの統合、ブックファイル内で章やページの再配置、ブックファイル内で章やページの削除、原稿ページのレイアウト変更、合紙やインデックス紙の挿入などといった編集操作が可能となる。これらの操作を行うと、図4乃至図6に示す属性に操作結果が反映されたり、あるいはブックファイルの構造に反映される。たとえば、ブランクページの新規追加操作を行えば、指定された箇所にブランクページが挿入される。このブランクページは原稿ページとして扱われる。また、原稿ページに対するレイアウトを変更すれば、その変更内容は、印刷方法やN - u p印刷、表紙 / 裏表紙、インデックス紙、合紙、章区切りといった属性に反映される。

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0052

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0052】

印刷集中管理サーバ1202は、クライアント文書管理システム1200に格納された、あるいは文書管理サーバ1201に格納されたブックファイルの印刷を管理するサーバである。クライアントにおける印刷要求は、DOMSドライバ109およびDOMSプリントサービスモジュール110を介して印刷集中管理サーバ1202のDOMSWGサーバモジュール1221に送信される。集中印刷管理サーバ1202は、クライアントのプリンタで印刷する場合にはクライアントのDOMSプリントサービスモジュール110を介して電子原稿デスプーラ105に電子原稿データを渡し、プリントサーバ1203により印刷する場合には、プリントサーバ1203のDOMSプリントサービスモジュール1203に送信する。印刷集中管理サーバ1202は、例えば保存されているブックファイルに対して印刷要求を発行した利用者の資格などについてセキュリティチェックを行ったり、印刷処理のログを保存したりする。このように、文書処理システムは、スタンダードアロンとしても、クライアントサーバシステムとしても実現できる。

【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

 <プレビュー表示の内容>

すでに説明したとおり、ブックファイルが製本アプリケーション104によって開かれると、図10に示すユーザインターフェース画面1100が表示される。ツリー部1101には、開いているブック（以下、「注目ブック」と呼ぶ。）の構造を示すツリーが表示される。プレビュー部には、利用者の指定に応じて、3通りの表示方法が用意されている。第1は原稿ページをそのまま表示する原稿ビューと呼ばれるモードである。原稿ビュー モードでは、注目ブックに属する原稿ページの内容が縮小されて表示される。プレビュー部の表示にレイアウトは反映されない。第2は印刷ビューモードである。印刷ビューモードでは、プレビュー部1102には、原稿ページのレイアウトが反映された形で原稿ページが表示される。第3は簡易印刷ビューモードである。簡易印刷ビューモードでは、各原稿ページの内容はプレビュー部の表示には反映されず、レイアウトのみが反映される。